

科目名 Course Name	臨床栄養学概論 Introduction to Clinical Nutrition						
年次	2年	期別	通年	単位数	4単位	授業形態	講義
担当者氏名	穂積 元						
連絡先(質問等)	福祉棟 2階研究室か、メールで対応、オフィスアワーは金曜を除く授業担当時間以外						
必修/選択	選択(栄養士資格には必修)						
関連 DP	DP2, DP4, DP5						
授業の概要と到達目標	<p>近年、社会環境、疾病構造等の変化により生活習慣病が問題になっている。本教科では解剖学や生理学の基礎知識を基に各病態を理解し、日常の医療現場でどのような治療や診断方法が行われているかを学習する。また、治療法、とりわけ食事療法について、病態を理解してその食事療法の有効性(医学的根拠)を体系的に学ぶ。</p> <p>① 各疾患の病態がどのようになっているのか的確に説明できるようにする。それより各種療法の意義を考えることができるようにする。</p> <p>② 疾患の病期や重症度の診断基準を習得し、どの段階からどの療法が中心となるのかを識別できるようにする。</p> <p>③ 各種栄養法の特徴を習得し、栄養サポートチームの役割などを説明することができるようにする。</p>						
授業の方法	講義形式で実施し、映像機器を利用した視聴覚教材を用いる。また、関連科目の基礎知識については無作為に口頭試問を実施し、学生の理解度が不十分な場合は、予習課題とし次回授業開始時に発表してもらおう。上記の3つの授業目標に関する授業内容が完了した時点で、小テストを実施する。必要に応じて授業時間以外に予習・復習をし、いつでも発表できるように準備すること。						
学習成果	L01						
	L02	各疾患、とりわけ生活習慣病の成因や重症度、診断基準などが解説でき、その病態にあった各種療法の有用性を説明することができる。また、そのことから栄養指導の客観的な判断の根拠を述べることができる。					
	L03	各種栄養法とその特徴を説明することができる。また、現代社会において実施されている栄養サポートチームの役割や在宅栄養の実際を知ることができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	小テストは試験後に模範解答を示し、試験結果は授業内に各自に返却する。						
教科書/参考図書	教科書:「新しい臨床栄養学」 後藤・瀧下 共著(南江堂) 参考資料は適時配布をする。						
履修上の留意点やルール等	講義中の飲食、携帯電話の使用は厳禁とする。また、欠席日に配布された資料や講義内容のまとめは各自が自己管理すること。 事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。						
担当教員の実務経験	実務経験(職種:臨床検査技師、職歴:通算 35 年) 臨床病態の解説及び臨床検査項目と検査値の判定等において実務経験を反映させる。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	最高評価は授業に集中し、必要なことはきちんとノートにとる。また、分かりにくい点があれば積極的に質問する。		10		
レポート/作品					
発表	予習課題に対して十分な準備がされて分かりやすく発表できている。		10		
小テスト	授業目標ごとに実施する記述式の問題で、自筆ノート持ち込みで解答する。最高得点は問題に対し、的確かつ明瞭な回答となっていること。			40	

試験	自筆ノート持ち込みのまとめの試験で記述式の問題とする。前後期の第16回目に実施する。			40
その他				
合 計			20	80

回数		授業計画
1	授業内容	講義ガイダンス(成績評価法とルーブリックの説明、学習方法の説明)
	事前・事後学習	学習用ノートを準備し、各回内容に関連する解剖学や生理学で学んだ要点をまとめる。
2	授業内容	臨床栄養の概念と意義、新しい目的概念
	事前・事後学習	臨床栄養の意義と新しい目的概念とは何か。
3	授業内容	医療におけるNST(栄養サポートチーム)の登場の背景、これからの栄養士に求められているもの
	事前・事後学習	NST が登場するに至った社会的背景とは何か。栄養士に求められているものは何か。
4	授業内容	代謝性疾患1(糖尿病の病態、病型、診断基準)
	事前・事後学習	糖代謝はどのように調節されているかまとめる。
5	授業内容	代謝性疾患2(糖尿病の合併症)
	事前・事後学習	合併症が起こる過程をまとめること。また、重症化の過程を考える。
6	授業内容	代謝性疾患3(糖尿病の各病期と病態、食事療法の適応)
	事前・事後学習	各病期の病態をまとめ、それに対する食事療法について考える。
7	授業内容	代謝性疾患4(糖尿病における薬物療法) *糖尿病をまとめのクイズ形式症例検討
	事前・事後学習	各種薬物療法の作用点と特徴についてまとめる。
8	授業内容	食物アレルギー疾患、小テスト1(糖尿病から出題)
	事前・事後学習	各種アレルギーの分類し、食物アレルギーはどれに属するか調べる。
9	授業内容	腎臓疾患1(慢性腎臓病の診断と治療、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群)
	事前・事後学習	正常な腎臓内分泌機能を調べ、その機能低下による病態をまとめる。
10	授業内容	腎臓疾患2(各種病態と薬物療法)
	事前・事後学習	腎機能の指標となる各検査項目とその理由をまとめる。
11	授業内容	腎臓疾患3(人工血液透析－血液透析、腹膜透析)
	事前・事後学習	2つの透析の違いを調べる。
12	授業内容	腎臓疾患4(各種病態と食事療法)
	事前・事後学習	病態により注意すべき栄養素とは何か。糖尿性腎症の糖尿病食との関係とは何か。
13	授業内容	腎臓疾患5(透析食とその特徴) *腎臓疾患のまとめのクイズ形式の症例検討
	事前・事後学習	透析食の特徴とは何か。
14	授業内容	褥瘡とその治療法、小テスト2(腎臓疾患より出題)
	事前・事後学習	褥瘡とは何か。原因は何か。食事療法で必要な栄養素とは。
15	授業内容	消化器疾患1(肝臓疾患－ウイルス性肝炎、肝硬変、肝がん、脂肪肝)
	事前・事後学習	正常な肝機能をまとめる。その機能が低下して出現する症状・徴候を考える。
16	授業内容	消化器疾患2(胆嚢・胆道系疾患－胆石症、胆嚢炎、胆嚢がん、閉塞性黄疸)
	事前・事後学習	ビリルビン代謝についてまとめる。
17	授業内容	消化器疾患3(膵臓疾患－膵臓炎、膵臓がん)
	事前・事後学習	膵外分泌機能と消化管ホルモンについて調べる。
18	授業内容	消化器疾患4(胃腸疾患－胃炎、胃がん、十二指腸潰瘍、クローン病、大腸がん) *消化器疾患をまとめのクイズ形式の症例検討
	事前・事後学習	大腸がんの成因、腫瘍マーカーについて調べる。
19	授業内容	循環器疾患1(動脈硬化症、高血圧症)、小テスト4(消化器疾患より出題)
	事前・事後学習	動脈の解剖学的構造と硬化過程について調べる。

20	授業内容	循環器疾患2(心不全、冠動脈疾患、脳血管障害)
	事前・事後学習	虚血性心疾患とは何を表しているか。脳卒中を分類する。
21	授業内容	血液疾患(貧血の分類、栄養性貧血)、小テスト5(循環器、血液疾患から出題)
	事前・事後学習	血液成分を分類し、有形成分の正常範囲を調べる。
22	授業内容	代謝性疾患6(脂肪代謝異常症1)
	事前・事後学習	正常な脂肪代謝についてまとめる。
23	授業内容	代謝性疾患7(脂肪代謝異常症2)
	事前・事後学習	動脈硬化症との関係についてまとめる
24	授業内容	代謝性疾患8(タンパク代謝異常:痛風、カルシウム代謝異常:骨粗鬆症)
	事前・事後学習	痛風の病態とは、骨粗鬆症を分類する。
25	授業内容	代謝性疾患10(肥満、メタボリック症候群) *代謝性疾患をまとめたクイズ形式の症例検討
	事前・事後学習	メタボリック症候群の概念とは何か。
26	授業内容	内分泌疾患(甲状腺機能疾患)、小テスト6(代謝性疾患から出題)
	事前・事後学習	甲状腺機能亢進症と低下症の症状の違いをまとめる。
27	授業内容	各種栄養法1(各種栄養法とその特徴)
	事前・事後学習	NSTと関わりの深い栄養法について調べる。
28	授業内容	各種栄養法2(経管栄養法の現状)
	事前・事後学習	中心静脈栄養法と末梢静脈栄養法の大きな違いは何か。
29	授業内容	栄養評価とNSTの役割 1
	事前・事後学習	NST における栄養士の役割とは何か。
30	授業内容	栄養評価とNSTの役割 2、小テスト7(各種栄養法から出題)は 16 回目に実施する。
	事前・事後学習	在宅における NST の役割とは何か。